

Q1. 大学の講義室での研修(e-learning 演習)はどんな感じですか？

A:課題が前もって出ますので、e-learning を見て課題をしていれば演習は大丈夫です。グループワークが殆どで発表、感想を必ず一人一人言うようになっていきます。早く言った方がいいです。

A:e-learningを視聴しての研修は、患者をイメージしやすく演習内容が理解しやすいです。

Q2. 講義を受けるにあたって何か必要な準備はありますか？

A:演習や実習の前には必ず事前課題があります。無理をして完璧に課題に取り組む必要はありませんが、e-learningを視聴しながらしておいた方が、当日の演習・実習の学びが深まります。

A:区分別科目のe-learningは視聴できる期間が決まっているので、その期間を十分に活用するといいです。

Q3. 特定行為研修室での研修(実技演習・実習)はどんな感じですか？

A:お互いに患者役、看護師役になる事で客観的に見ることができ、意見することができます。

A:自宅で聴講したe-learningだけでなく、実技演習の前に講義があり知識の振り返りができました。共通科目ではグループに分かれ演習を行いました。他の受講生の様子を見ることで自分の学びに繋がりました。自分が患者役になりベッドに寝ることで、急に触られる事や上から見下ろされる不快感を体験できました。



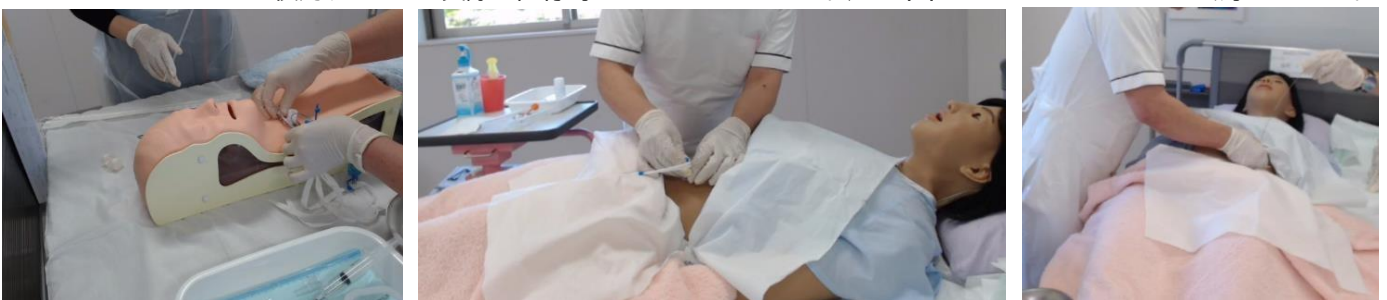
Q4. 効果的な e-learning 視聴のコツってありますか？

A:効果的な視聴は、印刷した資料に書き込みながらとにかく短時間でも毎日視聴することでした。理解できない部分を何度も聞き返すことが出来るのもありがたかったです。

A: e-learningは、朝起きて1項目、仕事から帰宅して2項目視聴するようにしていました。計画通りにいかないときは、休日に視聴していました。

Q5. シミュレーターを使った研修って、どんな感じですか？

A:シミュレーターを使用することで実際の医行為がイメージできました。声が出るなどかなりリアルで驚きました。



Q6. シミュレーション教育って、どんな感じですか？



A:演習室には成人サイズの実習人形があります。実技講義や、実技試験の練習、実習前に手技獲得のために人形を使用して、練習を行います。人形はとてリアルに再現されていて、返事もしてくれるので、患者への声掛け方法の練習や説明の練習にも使用します。

Q7. パソコン操作はどのくらいできればいいのでしょうか？

A:パソコン操作は、ローマ字入力ができ、全角、半角、印刷、保存が出来ればある程度出来ると思います。教員は、パソコンが得意なので聞けば何でも分かると思います。

A:私は研修を受けるまで、自分のパソコンを持っていなかったのですが、Word、Excel、PowerPoint の使用方はほとんどわかりませんでした。講義内でもわからないことは教えてもらえるので大丈夫です。慣れてくると、少しずつできるようになりました。

A:パソコンは、WordとExcelとPowerPointのソフトが入っていてWi-Fiに繋がられるのも、タイピングがしやすいもの、コンパクトなものなど、自分の利便性を考えて準備すれば大丈夫です。

Q8. パソコン以外に準備していた方がよいものってありますか？

A:特定行為研修で使う資料を印刷するためにプリンターの準備が必要と思っていましたが、学内のプリンターが使えたので、研修中は学内で多くの資料を印刷することができ、大変助かりました。しかも、印刷料金は全く、かかりませんでした。パソコン以外は筆記用具と USB があれば十分ですが、友人は iPad に特定行為の資料をダウンロードし、いつでも画面上ですぐに閲覧できるようにしていました。

A:自分の使いやすい筆記用具と USB は準備したほうが良いです。あとは、終わった講義資料をまとめるファイルを100均で買いました。その他は特に無いと思います。S-QUEの研修を視聴するために大学から在学中は、iPadを貸してもらえました。北機も印刷が必要な時は職場や大学の印刷機で行っていて不便はありませんでした。

A:iPadを大学から無料で借りれるので、e-learningの視聴や講義資料をデータとして持ち運ぶなど利用させてもらいました。

Q9. 学校(教員)との連絡はどうするのでしょうか？

A:連絡方法は、主に教員の携帯からの電話や SMS、大学メール Outlook・センター用のLINE で行っていました。実習記録は Outlook でやり取りしました。

A:インターネット:大学メールOutlook(添付資料があるとき)と、LINEや携帯ショートメール、電話を活用しリアルタイムに情報伝達していました。



Q10. 科目修了試験対策は難しいですか？対策はどうしましたか？

A:対策は、とにかく問題を解くことです。解答に解説がありますので、それをよく読んで頭に叩き込みました。

A:各講義終了時に知識確認テストがありますので、そのテストの問題と解答を見返せるようにプリントアウトしておいた方がよいです。

Q11. OSCE 対策はどのようにしましたか？

A:場面に合わせてシナリオ(医師説明時、患者説明時、病室時説明、必要物品、実践前、実践中、実践後など)を作成して、仕事の合間や通勤通学途中にイメージトレーニングしました。また、必要物品を借りて、自宅で練習を行い、教員や同期とシミュレーションをしました。

A:練習が必要です。仕事が休みの日に受講生同士で繰り返し練習した方がよいです。

A:手順書に対象のどんな情報を記載すればよいか、手順書が自分の頭に入っているかなども、試験では重要になってくると思います。シミュレーションがとにかく大切です。

A:シナリオを教員に確認してもらい、漏れがないかなど練習に付き添ってもらうことが必要です。勤務後や土曜・祝日など、事前に伝えれば調整してもらえるので、積極的に教員に相談して、時間を作ってもらった方がよいです。

Q12. 人見知りで話すのが苦手ですが大丈夫でしょうか？

A:私も苦手ですが演習では必ず自分の意見・感想を言わないといけないので段々慣れてきます。大学の先生・講義の先生・同期・実習病院の指導医、指導者みんなやさしく話しやすい雰囲気です。

A:私は人見知りで、なかなか自分から話すタイプではないことや、看護師になって20年以上の経験もあり、再び学生となることに不安を感じていました。いざ、研修が始まってみると、同じ目標をもった同志の集まりのため、学びの疑問や課題をディスカッションするうちに、お互い刺激し、成長できる仲間と感ずることができました。今では相談し合える良き友で仲間です。自分の考えや意見を、言葉にして相手に伝えることが苦手でしたが、学内での課題を通じて、研修生同志でディスカッションを何度も行うことで、考えを頭の中で要約し、言葉として発して伝えることができるようになりました。特定行為研修での学び以上にコミュニケーション技術も上達できたと思います。

Q13. 1日集合研修日はどのように過ごしましたか？

A:研修、休憩時間含め講義内容、課題についてなど仲間と情報交換を行い、互いの施設の話などをするなどして過ごしました。

A:勤務は「出張」・「公休」・「有給」を使用と様々でした。お昼の休憩は、学食が開いていたら学食で食べられている方もおられました。安くて美味しかったと言われていました。休憩時間に、お互いの病院について情報交換や現場で困っている症例について相談に乗ってもらったりしました。休憩時間を利用し課題の訂正をすることもありました。周りに研修生がいるので分からないことも一緒に考えてくれるので助かりました。

Q14. 仲間との交流・関係性はどのように育みましたか？

A:仕事や研修のことだけでなくプライベートな話もしました。

そうすることで気兼ねなく質問し合ったり、一緒に考えたりということがスムーズになったと思います。

A:フォローアップ研修に修了生と受講生が参加できます。先輩方と話すチャンスなので、有効活用してください。



Q15. 学んだことを忘れないためにどんな工夫をしましたか？

A:勤務している時に、患者さんに実践し、フィジカルアセスメントを忘れないようにしました。学んだことは、患者さんへ説明する時に医学的根拠をもって説明することで忘れないようにしています。

A:フィジカルアセスメントや臨床推論を実際の患者様で活用することで更に理解が深められたと思います。自分が行ったアセスメントは、同僚や上司にも見てもらい意見をもらっていました。正常値、観察項目、検査データ、スケールなどは自分なりにまとめておきました。実習の時にアセスメントをしたり、レポートに使用したりと便利でした。

Q16. 実習前に記録など準備しておいた方がいいものはありますか？

A:実習記録用紙を自分でアセスメントしやすいように作成しておいた方がいいです。先輩方からのファイルを、教員を通じて受け取りましたが、自分なりにカスタマイズしておく、情報収集やアセスメントがしやすくなります。

Q17. 実習中の記録物の印刷はどうしていましたか？

A:実習記録を作成したら教員に見てもらいます。1回から数回の添削後に完成したら、自宅で印刷することもありましたが、教員が印刷して実習先で受け取ることも可能でした。実習前に教員のモバイルプリンターに接続できるように設定してもらい、実習先で印刷することも可能でした。自分の職場が実習先ではない場合、職場での印刷はNGです。

Q18. 実習場所まではどうやって行きましたか？

A:自宅からは交通の便が悪かったのでマイカー通学しました。駐車場も広かったのが助かりました。

A:車で通いましたが、雪で通勤が不安なときには、同期の自宅に止めてもらいました。



Q19. 実習時のユニフォームの決まりはありますか？

A:自施設のユニフォーム着用で大丈夫です。念のためフェイスシールドは準備しましたが、携帯用アルコール消毒やフェイスシールドを含む防護具は大学から配布されました。

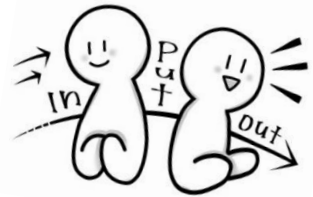
A:初日や看護部長室にご挨拶に行くときは、スーツが好ましいです。他は実習先でユニフォームに着替えて実習に望むので、私服(普段着)で大丈夫です。

Q20. 実習の実際はどのように行われるのですか？

A:OSCE試験同様だと感じました。患者の情報収集を行い、アセスメントを行い、手順書に沿って医師と打合せを行い、実践します。実践後は医師とディスカッションを行います。とても緊張感がありますが達成感もありとても良い学びになります。そのために実技練習やOSCEで何度も練習を重ね、手技や声掛けに自信をつけることも大事だと実感しました。

Q21. 初めての実践はどんな感じでしたか？

A:初めての実践は緊張しました。OSCEで行った内容を振り返りながら何度もイメージトレーニングして望みました。指導医との打ち合わせの前に教員と一緒に流れやポイントを打ち合わせながら望みました。



Q22. 実習で大変だったことはどんなことですか？

A:実習で大変だったことは情報収集からの事前準備です。例えば、胃ろうなどは入院歴がない場合も多く、事前情報が少ないために推論が書きにくかったです。患者様にお会いして初めて得る情報となりますので、実践の前に情報収集する内容を整理しておく必要がありました。

A:私の場合、脱水の補正や高カロリー輸液量の調整に関する理解が不十分なまま、実習に突入してしまったことです。実際の症例に当たりながら教員にマンツーマンで指導してもらいました。症例記録の書き方も難しく時間がかかりました。

A:看護ケアで対象の回復力を活かせる特定行為を実践するぞ！と考えフィジカルアセスメントに臨むのですが、観察不足があったり、得た事実を推論する時に混乱したりと、頭が回らなくなることもありました。しかし、回数を重ねていくことで、順序だてて論理的に述べられる自分に成長していくことを実感できると思います。

Q23. 所属施設(自施設)実習での苦労はありますか？

A:もともと施設に特定看護師がいたり、病院の環境が整っていたりするところは動きやすいかもしれませんが。初めての特定行為研修の実習を行うところでは、環境を整えるところから行っていく必要があるため、所属施設の看護部長や指導医と事前によく話し合って整えておいた方がいいです。

A:大学の協力施設では、あらかじめ指導医や指導者が、対象を選定してくださっているのですが、『対象となる患者の選定』から自分で行っていくことに大変労力しました。

Q24. 実習指導医とうまく話せますか？

A:実習指導医は皆さん優しかったです。伝えたいことを十分に整理して臨める訓練も必要と思いました。

A:コミュニケーション自体は苦手ではないので、日頃自施設で、医師と話しをするように話せたと思います。指導医の先生もこちらが緊張しないよう配慮してくださっているのが伝わりました。

Q25. 記録が苦手ですが大丈夫でしょうか？

A:記録の様式があるので様式に沿って行えば大丈夫です。文章が苦手でも声に出して読み返すとおかしい所がわかります。これは教員がアドバイスしてくれました。

A:医療業界用語に呑み込まれていないか、意識するようにしました。

Q26. 一番の思い出はどんなことですか？苦楽を教えてください。

A:一番の思い出は仲間です。実践に関しては殆ど教員と2人で臨みますが同期の仲間と情報共有することで自分一人ではないと言う強みになっていました。実習先での先輩方のサポートも心強かったです。苦労したことは実践の流れやフィジカルアセスメントで必要な内容などを覚えることです。覚えが悪いため、自宅のトイレに貼り紙して何度も復唱していました。

A:一番の思い出は、OSCE のテストでした。何回も練習し手技、セリフを頭に覚えさせるのが大変でした。でも、OSCE をしっかり習得していれば実習で困りません。何回も練習して自信をつけて下さい。

A:患者を診る視点が広がりました。フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションから得られた情報を症状や検査値で考えるようになりました。



Q27. 修了後の実践に向けてどんな準備をしていましたか？

A:病棟での勉強会を実施し、スタッフに伝えることで困った症例がある時は相談してもらうようにしました。

A:研修中から提出するレポートを上司に見てもらい、研修の進捗状況やどんな研修を受けているのかが分かるようにしていました。院内の事務、管理栄養士、薬剤師にもレポートの相談をしながら「特定行為の研修を受けている」というアピールを行っていました。実践の時には、色々と情報を貰える事にもなり助かっています。脱水の場面に遭遇した時など、「どのように動くか」「どんなアセスメントをするか」「輸液を実施するとしたら何を選択するか」など日頃からシミュレーションをしていました。

Q28. 研修日程と職場との調整はどのようにしましたか？

A:ある程度の予定は前もってスケジュール表でもらえます。変更があれば、随時連絡が入ります。実習前までの日程調整で困ったことはありませんでした。実習期間は、急遽実習になるなど日時が変更することもあります。実習期間の平日の勤務は予め、日勤か休みにしてもらい、勤務先になるべく迷惑がかからないように心がけていました。

A:パッケージ研修では、自主練習の時間であっても研修に変わりはないので勤務として扱ってもらうように職場と交渉しました。

Q29. 県外からの受講は可能ですか？

A:登校しないといけない日は指定があります。できるだけ負担がないように登校日はまとめてくれています。決まっているときはあらかじめ早めに近くのホテルを予約しておく方がいいです。ホテルが少ないので、なかなか予約が取れない時があります。

Q30. 体調がすぐれない時はどうしたらいいですか？

A:教員に相談してください。zoom対応や別日の調整など、何らかの方法を考えてくれます。